

チェルノブイリに思いをよせて

# ポレーシエ

## 今年の「総会&チェル救デー」は 6月14日(土)です!!

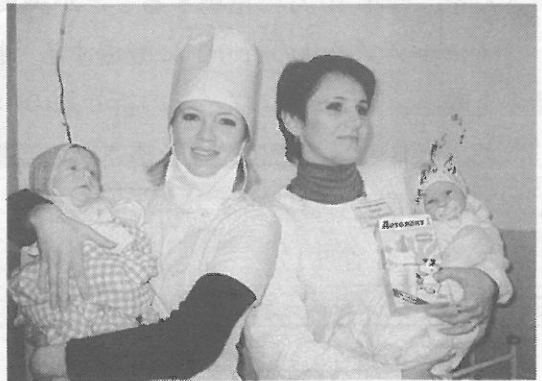
1年なんてあっという間。梅雨になったら「チェル救デー」の到来です。普段は、変わり映えのしない運営委員(運営委員の皆様、失礼しました)で活動していますが、このときは、めったにお会いできない会員の方たちとお話ができ、とても嬉しいのです。このような方たちが、チェル救の活動を見つめてくれ、応援してくれているのだということを改めて感じることができ、その後1年間の励みになります。(でも、その「励み」の有効期限はあくまで1年なので、やはり1年ごとに、皆様に来ていただかなくてはいけないのですが…。)

今年は、10月にビッグプロジェクト「アレクシエーヴィチさんの講演会」を控え、士気はとても高まっています。創立期からいる運営委員の方に言わせると、いまチェル救は再び“活動期”に入っているとのこと。あわせて高齢化も進んでいますが…(笑)、まだまだ進化しそうな予感のする今日この頃です。

というわけで、参加費無料、場所は名古屋のど真ん中で便利なところ、爆発寸前のチェル救をご自分の目で確かめていただくために、是非とも足を運んでください。

お待ちしております。

(市原)



＜ジトーミル市立小児病院にて(2003年2月)＞

〒466-0822 名古屋市昭和区楽園町137 1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：大谷早苗

郵便振替：00880-7-108610

TEL/FAX：052-836-1073 (月・水・金 10:00~17:00)

E-mail：chqchubu@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

# チェル救デー(総会&イベント)の紹介

日時：2003年6月14日(土) 13:30~16:30

場所：あいちNPOプラザ(旧 県保健センター/下の地図参照)

特定非営利活動法人「チェルノブイリ救援・中部」の総会は、会員や支援者が一堂に会する貴重な機会です。毎年、この日を「チェル救デー」と位置づけて、総会のほかに各種の催しと交流会を行っています。

今年は、以下のようなプログラムを用意しました。

イベントは、『チェルノブイリの祈り』の著者であるスヴェトラナ・アレクシエーヴィチさんを、今年10月に招聘することが決まったことに焦点を絞っています。

『チェルノブイリの祈り』に登場する「被曝死した消防士の家族」の想いを伝えるビデオの上映と、『チェルノブイリの祈り』のいくつかの節の朗読を行ないます。

なお、当日の会場では、金子透さんの写真展や視察団訪問(2003年2月)の様子を紹介したパネル展示も行います。

## プログラム

### 第1部 総会

(13時30分~14時15分)

報告事項 2002年度事業報告

2002年度決算報告

主な議題 2003年度役員改選

2003年度事業計画

2003年度予算

(休憩)

### 第2部 イベント

(14時30分~15時30分)

ビデオ上映「被曝死した消防士の家族の記録」

朗読「チェルノブイリの祈り」

### 第3部 交流会

(15時30分~16時30分)

お茶を飲みながらのフリー ディスカッション  
現地の様子・救援活動の現状と今後の方向性 etc.  
について、質疑応答や意見交換などを行います。

※ 総会を含め、正会員でなくても無料で参加できます。



地下鉄名城線「市役所」下車。  
②番出口から「市役所東交差点」角。(旧・県保健センター跡)





# アレクシエーヴィチさん講演会(日程が確定しました!!)

1. 講演会のスケジュールが確定しました。(一部変更となりましたので注意してください。)

2. 名古屋地区講演会決定!!  
 日時：10月18日(土)  
 13:00 開場  
 13:30~16:00 講演会  
 場所：今池ガスビル9F  
 会費：一般前売 1,000円  
 (当日 1,300円)  
 学生前売 500円  
 (当日 700円)

3. 講演名義を取得しました。  
 \*ベラルーシ大使館(取得済)  
 \*ウクライナ大使館(取得済)  
 \*県教育委員会(申請中)  
 \*市教育委員会(申請中)

4. 共催団体(1万円/団体)  
個人の賛同金(金額は自由)  
を募集中です!  
 よろしく願います。

## 【日本縦断スケジュール】

月 日	予定	宿泊地
10月8日(水)	来日(成田着)	東京
9日(木)	取材など	東京
10日(金)	歓迎会	大阪
11日(土)	講演会：大阪会場	大阪
12日(日)	講演会：広島会場	広島
13日(祝)	講演会：札幌会場	札幌
14日(火)	Free time	札幌
15日(水)	講演会：松本会場	伊那
16日(木)	交流会：伊那会場	伊那
17日(金)	Free time	名古屋
18日(土)	講演会：名古屋会場	名古屋
19日(日)	講演会：東京会場	東京
20日(月)	送別会	東京
21日(火)	帰国(成田発)	

## 《アレクシエーヴィチさんからのお手紙》

親愛なる竹内高明様

残念なお知らせをしなければなりません——私は10月7日までは日本に出発できないのです。カンヌでの、哲学者ボードリヤールとのディスカッションの期日を変えることができませんでした。これは10月3日から5日までの大きなフェスティバルです。フランスの著名な哲学者たちと私との一連の公開討論が企画されています。

最初の皆さんとの予定では、私は10月後半に日本に行くことになっていました。

【竹内さんの露訳は「10月前半の約2週間」となっており、これはアレクシエーヴィチさんの勘違いです。】  
 それでそういう予定にしていたのです。カンヌでの討論参加を断れない理由はいくつありますが、主な理由は主催者が、すでに3年目になる私のヨーロッパ滞在の助成金を出してくれている人たちだということです。もし予定を1週間ずらすことができれば、私は日本に行かせていただきます。

ご興味があれば、すでに発表されたそのような討論の一つ、哲学者ポール・ヴェリリエ[ヴェリーユ?]のものをお送りします。数カ国で出版されているものです。テーマは「チエルノブイリ後の世界」です。このようなご面倒をおかけして申し訳ありませんが、私のスケジュールはいつも過密状態で、常にすべての予定を確認していなければならないのです。何か解決法が見つければうれしいです。尊敬と申し訳なさの気持ちをこめて

S.アレクシエーヴィチ



今からわずか2年前、21世紀を迎えたばかりの世界は、希望に満ちた新たな社会を期待し、人々はさまざまな夢を語った。「原子力や核からの解放」も間違いなくその一つだった。しかし、2003年の今、世界も日本も何と暗い未来を見せつけられ、傷ついているのだろうか。「テロと核」が、再び新たな恐怖と疑心暗鬼の暗闇に私達を引きずり込み、武力による自己防衛もやむ無しとの風潮を作り出している。いつまでも続く核との戦いを、人類は克服できるのだろうか。

### 劣化ウラン弾の登場

劣化ウラン弾は、原発の燃料製造の際に出る廃棄物が原料である。原発燃料はウラン235だが、これは鉱山で精製したばかりのウランには、0.7%しか含まれていない。99.3%は、燃料にならないウラン238である。これを高速増殖炉でプルトニウム239に変え、新たな原発燃料として使おうというのが、もんじゅ計画の目指した「核燃料サイクル」である。しかし、これは事実上世界的に破綻した。日本もいずれ撤退せざるを得ない。核燃料として使えないから、「劣化ウラン」である。アメリカやイギリスは、このあり余る核廃棄物を砲弾に利用した。鉄の2.5倍も重い金属で、分厚い戦車の装甲をも打ち抜くためだという。しかし、着弾の際の高熱で、劣化ウランは蒸発し、微粒子として大気を汚染する。劣化ウランといっても、放射性物質に変わりはない。アルファ線とガンマ線を出し、周りを被曝させる。半減期45億年のウラン238は、地球誕生時からまだ半分にしか減っていない。人間が地下から採掘しなければ、永久に地下に眠っていたはずのものである。劣化ウラン弾は、1991年の湾岸戦争に始まり、その後のコソボ紛争やアフガン攻撃、そして現在のイラク戦争でも大量に使われた。湾岸戦争では、戦車や戦闘機・大砲・ミサイルなどから95万発の劣化ウラン弾が発射された。今度のイラク戦争では、それをはるかに上回る。

### 被害は累々

湾岸戦争後、イラクでは兵士ばかりでなく子ども達

の癌や白血病が激増した。英国医学会機関誌によれば、戦争前の1989年に比べて、1994年には癌発生率が7倍に増加した。イラクでは、約1万人が劣化ウランにより癌になったと推定されている。その他、無脳症や水頭症などの先天異常児も戦争前の3倍に跳ね上がった。戦争に参加した米英軍兵士もまた被害者である。アメリカでは、湾岸戦争に従事した58万人の兵士のうち31%にあたる18.2万人が、退役軍人省に「白血病・癌・腎臓病」などの疾病補償を求めているが、米国政府はこれを認めていない。イラク戦争で、こうした被曝による被害はさらに増えるだろう。戦闘は止んでも止むことのない戦争、これが劣化ウラン弾による被害である。チェルノブイリの被害に何と似ていることだろうか。

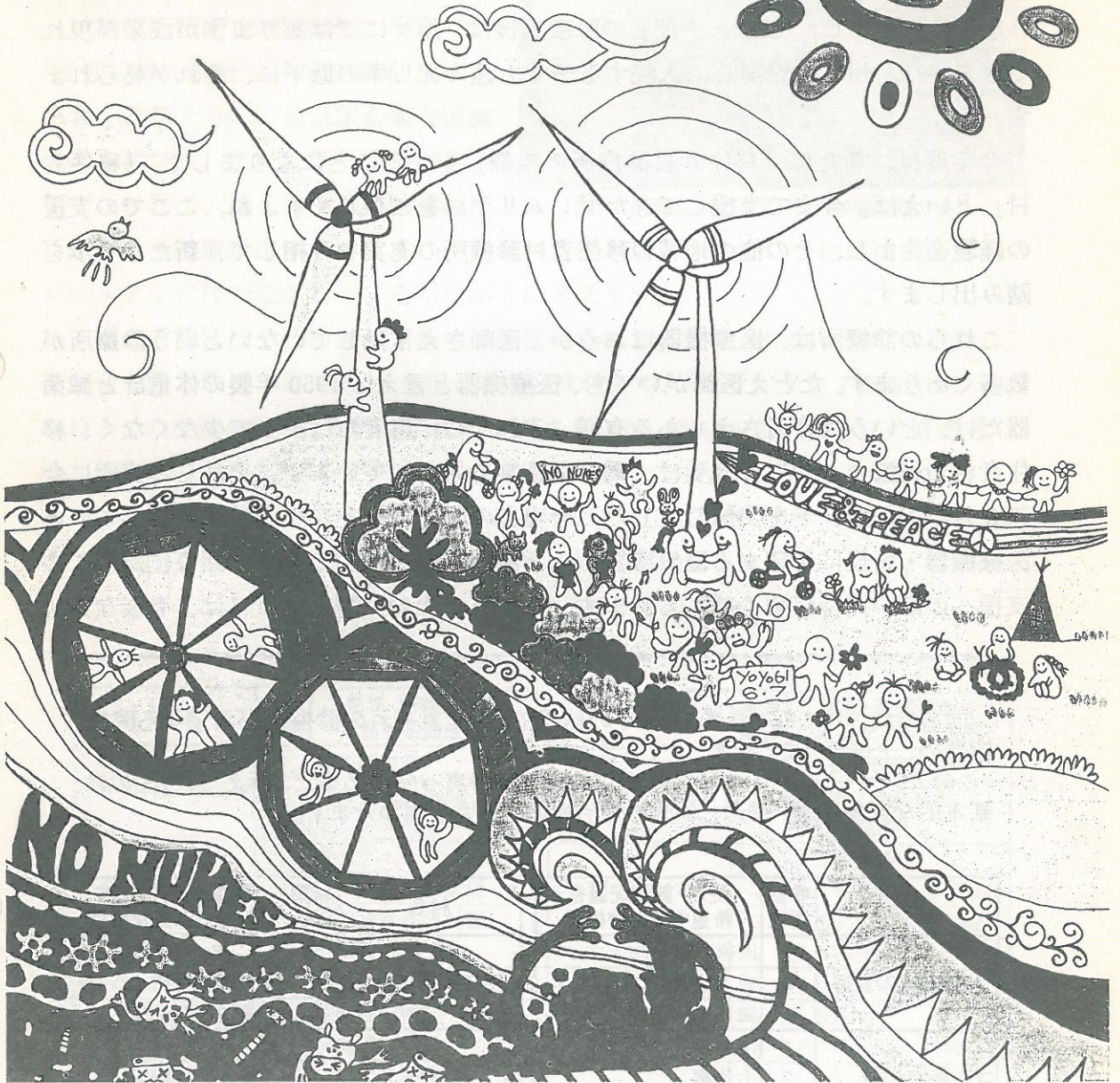
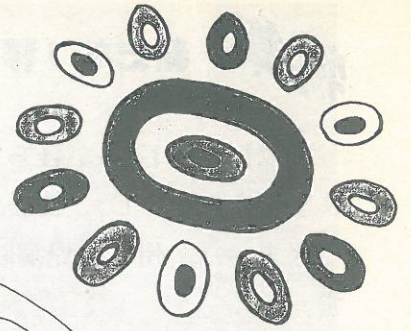
### 小型核兵器開発に歯止めを

最近、アメリカは対テロ戦争のためと称して、小型核兵器開発を決めた。従来の核兵器は、ウランやプルトニウムの連鎖反応を持続させる「臨界量」の限界のため小型化できず、もっぱら大量破壊兵器として「抑止力」にその役割があった。「使えない事」こそが、最終兵器としての核兵器の価値であった。しかし、その壁を越えて戦場で使える兵器を目指す。これこそまさに、際限のない核拡散への道に他ならない。アメリカができることは、いずれ他の国でもできる。既に核を持つ国が、それを放棄できないことこそが、核拡散の最重要課題であり、拡散の口実を正当化していることを忘れてはならない。

(河田)



# 子どもたちに 原発も核もない未来を



デザイン・小林めぐみ

## 6月7日(土)代々木公園 B地区

雨天決行・入場無料

- 11:00 イベント広場開場(公園内で自然エネルギー展示・体験学習・写真展・フリーマーケットなどなど…)
- 13:00 オープニング ゴスペルクワイア「Voce」
- 13:30 原発現地からの報告：笠木透(歌)：津軽三味線など  
司会：神田香織(「はだしのげん」講師)
- 16:00 パレード

主催：「原発やめよう全国集会2003」実行委員会  
〒164-0003 東京都中野区東中野1-58-15 寿ビル3階 反原発運動全国連絡会気付  
Tel/Fax.03-5330-9789 office@nonuke2003.net <http://www.nonuke2003.net>





# 特集 新たな「移住者村診療所」のレベルアップをめざして

事故後、丸17年が経ちましたが、被災者の人たちの深刻さは、いっこうに改善されません。しかし、「救援・中部」の医療支援は、徐々にではありますが成果が現れてきました。州立小児病院に入院する子ども達の死亡率の低下に、それが見られます。

今年度は、新たに「移住者村診療所の整備」をすることになりました。「移住者村」といえば、今まで支援してきたゼレムリヤ村をご存じですよ。ここでの支援の経験を生かし、その他の地域の移住者村診療所の充実を目指して、新たな一歩を踏み出します。

これらの診療所は、医療機器はおろか、医師さえ常勤していないという診療所が数多くあります。たとえ医師がいても、医療機器と言えば1950年製の体重計と滅菌器だけ、という診療所さえもある有様。それなのに患者数は決して少なくなく、移住者村の医療を一手に引き受け、重要な役割を果たしています。それら診療所に今年3月、アンケートを実施しました。今現在の医療スタッフの人数・保有している医療機器・新規に希望する医療機器、などなどの質問に寄せられた回答には、この支援への熱い期待が強く感じられます。ウクライナの医療スタッフは、有能な人材

この表は、3月に行ったアンケートの結果です。それぞれの診療所が希望する医療機器の、上位3つまでをまとめてみました。

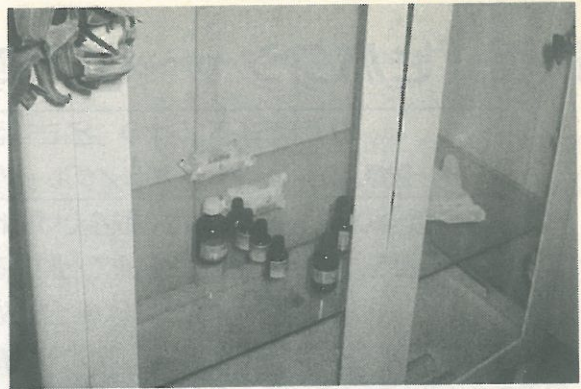
このアンケート結果からわかるように、診療所が真っ先に必要だと訴えているものは、基本的な医療機器であり、ふだんの治療の不便さを伺わせず。

村名	希望順位	更新・新規配備を希望する医療機器	村名	希望順位	更新・新規配備を希望する医療機器
ヴァシリエフカ村	1	医療用秤	グルスク村	1	プリンター付心電計
	2	成人用身長計		2	磁気治療装置
	3	磁気治療装置		3	高周波治療装置
ゴロヴェンカ村	1	医療用秤	オソフツィ村	1	殺菌ランプ
	2	冷蔵庫		2	超高周波治療装置
	3	心電計		3	超音波咽喉照射器
サトキ村	1	極超高周波治療装置	ノーヴィエーオゼリヤヌイ村	1	殺菌ランプ
	2	心電計		2	超高周波治療装置
	3	滅菌消毒器		3	超音波咽喉照射器
ルカ村	1	コンプレッサー式吸入器	ピリポンカ村	1	殺菌ランプ
	2	医療用秤		2	超高周波治療装置
	3	引き出し付整理棚		3	超音波咽喉照射器
ゴロディシェ村	1	乾燥滅菌器	フィコフ村	1	単眼顕微鏡
	2	医療用秤		2	白血球数計算機
	3	新生児用秤		3	遠心分離機



が集まっており、地域医療に必要不可欠な機器さえあれば、十分な保健活動・初期治療が可能なのです。

「診療所整備」の具体的なプランは、「医療設備の最低レベルの確保」です。患者を診察するのに最低限必要な医療設備を持てば、生死に関わるほどの病気でなければ、遠くにある基幹病院に



〈乏しい医薬品（2003年2月サトキ村診療所にて）〉

行かずとも治療が出来る…、多くの住民に支援が届く…、ひいては地域の衛生面のレベルアップにつながる…、そんなふうに考えます。

支援の財源には、外務省の「草の根無償資金協力」という助成金制度に申請し、交付金を勝ち取る予定です。「救援・中部」は今まで、「ボランティア貯金」「外務省ODA」の申請を続け、予算を確保してきましたが、チェル救のように“常連さん”は、打ち切りが現実的になってきたのを機に、新たな申請を試みることになりました。この助成金の審査には在外公館も加わるので、在ウクライナ大使館の意見も聞き、診療所支援に対する賛同・協力を得られることになりました。（市原）

村名	希望順位	更新・新規配備を希望する医療機器
プリヴォローチエ村	1	単眼顕微鏡
	2	白血球数計算機
	3	遠心分離機
ポクルィシエフ村	1	殺菌ランプ
	2	超高周波治療装置
	3	超音波咽喉照射器
ホームテツ村	1	単眼顕微鏡
	2	白血球数計算機
	3	遠心分離機
モロソフカ村	1	単眼顕微鏡
	2	白血球数計算機
	3	遠心分離機
ラザレフカ村	1	殺菌ランプ
	2	超高周波治療装置
	3	超音波咽喉照射器
オザドフカ村	1	心電計
	2	光電比色計
	3	乾燥滅菌器
カーメンカ村	1	1チャンネル心電計
	2	手動人工呼吸器
	3	ポータブル歯科用ドリル

村名	希望順位	更新・新規配備を希望する医療機器
コルニン村病院	1	タービン式歯科用ドリル
	2	ポータブル心電計
	3	蒸気滅菌器
ジョフトネヴォエ村	1	蒸気滅菌器
	2	成人用手動人工呼吸器
	3	極超高周波治療装置
リソヴェツ村	1	歯科治療台
オプリトキ村	1	超高周波治療装置
クラスノボルカ村	1	心電計
	2	コンプレッサー式吸入器
	3	石英ランプ照射器
ポティエフカ地域病院	1	光電比色計
	2	顕微鏡
	3	心電計
チェルノルートカ村	1	比色計
	2	遠心分離機
	3	顕微鏡
ベリロフカ村	1	産婦人科用診察台
	2	冷蔵庫
	3	乾燥滅菌器



# 映画「ヒバクシャ～世界の終わりに～」上映決定！

9月6日（土）名古屋女性会館にて上映

監督/鎌仲ひとみ 製作/グループ現代 上映時間/1時間30分

先日、「筑紫哲也のNEWS 23」でも取り上げられ、全国でも上映が次々と決まってきた「ヒバクシャ」の映画を、名古屋でも自主上映で上映する事になりました。

（チェル救も、この上映会の実行委員に加わっています。）

5年程前にイラクを訪れた鎌仲監督が、そこで見た戦争の傷跡や出会った少女ラシャとの別れを通して、母国日本も被爆国であった事を改めて見つめ直し、現代に生きるヒバクシャの方たちの声を聞くために作り始めたドキュメンタリー映画です。

実はこの映画を名古屋で上映しようと集まった最初のメンバーは皆、こういった問題に知識も係わりも殆どない面々でした。それでもこの映画の事を知り、まずは多くの人が事実を知るきっかけにならないか、そして「戦争はいやだなあ、怖いなあ」と感じたら、その後に何か繋がるかという想いで始めました。私自身この映画の広報活動を通して出会った人からのお話を聞いて「そんなことがあっていいの!？」と驚きや憤りを感じる事だらけです。そういった事からも日頃から意識を持っている方はもちろん、そうでない人たちにもぜひ観てもらいたいと思っています。みなさんのネットワークで周りにどんどん広めていって下さい!!

「ヒバクシャ」上映実行委員会代表 近藤みき

問い合わせ:「ヒバクシャ～世界の終わりに～」上映実行委員会

TEL (052) 930-1357

(有) あいち教育映画内 神谷まで

イラクにヒバクシャ?  
とびっくりした人は、  
4ページの河田さんの  
「連載34」を読んでネ!!

## 再び「障害者協会」について

山盛三千枝

私達は1999年度から「ジトーミル州チェルノブイリ障害者協会」への支援を開始しました。この協会は多くが事故処理作業員として、事故当時、最も過酷な現場での作業に従事し、被曝を余儀なくされ「障害者」となった人々によって構成されています。国家や地域社会から切り捨てられ、「チェルノブイリ」の風化に伴い、老いながら、より一層厳しい現実生きる人々です。私達が「事故処理作業員協会」の支援と共にこの協会の支援を続けてきたのは、紛れもなく彼らが「チェルノブイリ被災者」であったからです。今年の2月、その「障害者協会」の組織内部で大きな変化が起こったことは、ポレーシェ74号でお伝えしました。2月の訪問時に、内部で意見の対立が起きている事を知り、しかもその原因の一つは、チェル救からの「支援」の使途・分配方法であることが判ったのです。私達は、運営委員会でのこの問題について検討するために、より詳しい情報が必要と判断し、当時者である前代表タビノヴァ氏、後任のヴィゴフスキー氏、ホステージ基金ドンチェヴァ氏に事情説明を求めました。これは、私達の支援が間違いのない形で、信頼できる人々に届くようにするために必要なことでした。現在、タビノヴァ氏は新組織「リクヴィダートル（事故処理作業員）」を結成し、25人の賛同者とともに、チェル救の支援以前からやっていた活動を開始していくとのことです。また、ヴィゴフスキー氏はタビノヴァ氏の後任になってまもなく代表を退き、ザグレバーリヌイという方が代行しているとのことです。私達としては、この機会に「障害者協会」の支援についてよく検討し、現地の人々に私達の考えを明確に伝え、今後どのような支援を行なっていくのかを探っていきたいと思っています。



アレシ・アダモヴィチに捧げる国際会議  
「文学の翻訳を巡って」〈2001・ミンスク〉

現代におけるアレクシエーヴィチの存在

アダム・マルジス（ベラルーシ・ペンセンター会長）  
より抜粋——

二つのことがある。アレクシエーヴィチをベラルーシの作家ということができるとかどうか？もう一つは、今ベラルーシの文学活動に彼女の存在はあるのかどうか？

一つ目の疑問はすぐに解消した。ベラルーシの作家辞典でもアレクシエーヴィチがロシア語とベラルーシ語で書いていると記されている。ベラルーシ語で書かれたのは初期の作品、子供らしからぬ話し『最後の生き証人』（邦題「ボタン穴から見た戦争」）。1948年に彼女が生まれたのはウクライナのイヴァノ・フランクフスク市だが、家族はベラルーシのゴメリ州の出身だ。父親が軍隊から復員してゴメリに戻っている。農村の中等学校で教員をし、ベラルーシ国立大学のジャーナリスト科で勉強し、地域の新聞ベリョーザで働き、テレビや映画のシナリオ、演劇のための脚色などに携わっていた。

ベラルーシの中のロシア文学というのがあって、その代表者の一人がアレクシエーヴィチなのだ。彼女の作品はベラルーシのものである。そこにはベラルーシ共通の世界観、ベラルーシの愛国心があるからだ。

もう一つの疑問はより本質的だ。アレクシエーヴィチの本がベラルーシでほとんど出版されていないので、彼女のベラルーシにおける知名度はヨーロッパでのそれと比較にならない。ロシア、ドイツ、スウェーデン、フランスなどでは知られているのだ。ベラルーシでは文学としての存在ではなく、その「周辺」と言う形での存在に取って代わっている。「スキャンダルや噂話」に立脚したものだ。

彼女の作品は確かにベラルーシで受け入れられていない。ことに『亜鉛の少年達』（邦題「アフガン帰還兵の証言」）を我が国の現実にたいする中傷だと責められたからだ。彼女が使

っている手法は、記録文学というジャンルであり、アレクシエーヴィチの作品は作り事ではない。女性たちの人生を永遠にゆがめてしまった大祖国戦争は実際にあったことで『戦争は女の顔をしていない』であり、『最後の生き証人達』には子供達のことが書かれている。アフガン戦争（『亜鉛の少年達』）もチェルノブイリ（『チェルノブイリの祈り』）も実際にあったことだ。確かに多くのベラルーシ国民が人生に絶望して、自ら命を絶った（『死に魅せられた人々』）。つまり、読者の前にあるのは作り事ではなく、実際の人々の独白を集めたものだ。そうした人々は自分の悲劇的な過去を語ることで、新たにそのような悲劇が起こらないように警鐘を鳴らしている。実際、その人々の痛みを分かち合うことになるし、アレクシエーヴィチもその人々の痛みを伝えようとしている。アレクシエーヴィチの作品は社会を映す鏡なのだ。そこに映る一人一人の顔は個別の告白や独白から成り立っている。この世でただ一人しかない、それぞれの顔である。しかしそれが集まった総体として過去、現在、未来が映し出されている。

作家の心にあるのはチェルノブイリの事故そのものより、チェルノブイリを体験したその後の世界だ。アレクシエーヴィチの記録文学でもっともベラルーシらしさが際だっているのが『チェルノブイリの祈り』である。

「テープ録音の記録だ、アレシ・アダモヴィチやその一派がバトンをアレクシエーヴィチに渡したのだ」と、亡くなったアダモヴィチも生者も侮辱する言い方をしている。現在では、アレクシエーヴィチの約70種類の本が世界各国で出されたことになる。

単にテープに録音するという取材技術だけでなく、作家としてそれをまとめ、過去、現在、未来を哲学的に検討する才能があってこそなのである。他人の痛みをわがことのように感じとり、高度のヒューマンイズムがあってこそなのであって、それが出来る作家は極めて少ないのだ。（三浦みどり：訳）



## 竹内さんのウクライナ便り

4月25日、2年に1度キエフで開かれているホロヴィッツ記念青少年ピアノコンクールの第2次予選で知人の鈴木氏の演奏を聞いた後、帰宅途中の地下鉄の車内で、となりに立っていた若い人たちの会話を聞くとともにしに聞いていると、「26日はうちの妹の誕生日でね。世間じゃ追悼の日なのに、うちはお祝いなんだ」と言ってるのが聞こえました。しかし今年は、4月26日土曜日が復活祭の前日にあたり(復活祭の日は古来の教会暦で決まるので、年によって違う)、その夜から27日にかけては教会で夜通しのお勤めが行われ、その様子がTVで生中継されたりしていましたが、チェルノブイリ関連の番組はほとんどありませんでした。

被災者への未払補償金の支払いを要求し、社会保障の削減に抗議する「ウクライナチェルノブイリ同盟」主催のデモがキエフで26日でなく19日にあったのも、復活祭とぶつかるのを避けるためかもしれません。デモの参加者は警察発表で約5,000人。汚染地域から疎開させられた2万5千世帯が未だに代替住居の支給を受けていないそうです。

4月21日には、ロシアの新聞のインタビューに答えて、ロシア原子力相ルミャンツェフ氏が「チェルノブイリ4号炉の『石棺』は崩壊の危機にさらされている。」と発言。氏によれば、数年前にあったロシアのクルチャトフ核研究所の『石棺』調査の申し出をウクライナは拒否した由。ウクライナ外相ズレンコ氏はこれに答えて、「崩壊の危険が大きいとは思わない。専門家たちが状況を把握しコントロールしている。」と表明。しかし、ズレンコ氏は、『石棺』を覆う第2の石棺建設のため、西側からのさらなる資金援助が必要であることは認めています。第2の石棺建設開始は早くとも来年以降になる見込み。

また同じ頃、国家保安委員会(ソ連時代のKGB)が、チェルノブイリ原発に関する100ページにわたる秘密文書を公開。それによると、1977年から1981年にかけて、同原発では29件の事故が発生。1979年の文書では、同原発の建設・組み立て作業に際し、設計からの逸脱、技術上の手続き違反の



あったことが認められており、それらが事故につながる可能性も指摘されているそうです。また1982年に、原子炉の一つで「顕著な量の放射性物質」が大気中に放出される事故の起こったことについての報告もある由。

これは最近になって聞きましたが、知人の元チェルノブイリ原発職員のご夫婦の娘さんで、アメリカでバイトしながら大学に通っている人が、アメリカ人青年と結婚したそうです。その準備などでやたらに忙しく、結婚当日、婚姻届に日付を記入する段になって、4月26日であることに気がついたとのこと。電話でその話を聞いたお母さんは、「おまえがその日を忘れないようにっていう神様の配慮なんだよ」と答えた、という話でした。

ところで、しばらく前から、大統領が提案する憲法改正案というのが議論されています。現在の一院制国会(議員定数450人の最高会議)を二院制(比例代表制選挙の下院と、各地域を代表する議員の上院。各150人)に改め、大統領選挙とこの両院の選挙を同時に行うようにする、というのが改正の主なポイントのようです。大統領の権限を... 会に委譲し、民主化を推進する、というのが改正の理由とされていますが、それはまやかしかであって、クチマ大統領の真の意図は、現在大統領与党の諸政党が最高会議のころうじて過半数を占めるにすぎない状況を変え、国民投票を用いて、大統領の政策を実行しやすくすることだ、というのが野党の主張です。いずれにせよ、この憲法改正案を討議する国民集会というのが、大統領の肝煎りで各地で開かれており、その経費は昨年末採択された2003年度予算には見込まれていなかったはず、というのがこれも野党の指摘。来年の大統領選を控え、これから長く熱い政治の季節になりそうですが、国民の暮らしはいかに? (5月17日)



NPO法人チェルノブイリ救援・中部の2002年度収支報告書

(2002・4・1～2003・3・31)

収入の部		支出の部	
項目	金額(円)	項目	金額(円)
救援寄付金	6,785,052	事業費	13,575,421
(内訳)個人(786件)	5,312,737	(内訳)医療機関支援事業(メンテナンス)	1,916,491
団体(42件)	1,472,315	医療機関支援事業(車椅子提供)	311,080
補助金等収入	9,114,000	医療機関支援事業(医薬品提供)	2,520,000
(内訳)ボランティア貯金交付金	1,694,000	保健事業費(粉ミルク提供)	2,500,000
外務省ODA補助金	3,420,000	被災者団体等支援事業費	906,037
民間助成金	4,000,000	特別事業費	0
雑収入	196,781	奨学金事業費	1,429,412
(内訳)利子収入	567	現地派遣事業費	1,068,500
雑収入	196,214	現地パートナー支援事業費	0
		業務委託費	500,082
		駐在員費	242,700
		輸送費	849,417
		文通・クリスマスカード事業費	58,200
		国内事業費(機関紙発行)	1,173,502
		国内事業費(講演会費)	100,000
		管理費	3,130,553
		(内訳)役員報酬	660,000
		人件費	821,333
		通信費	394,815
		印刷製本費	56,813
		旅費交通費	332,811
		会議費	16,850
		消耗什器備品費	61,134
		消耗品費	80,262
		機器賃借料	0
		修繕費	14,175
		事務所費	553,518
		支払手数料	87,485
		広告宣伝費	17,300
		諸謝金	2,940
		団体会費	30,000
		租税公課	0
		為替差損・通貨両替手数料	87
		雑費	1,030
当期収入合計	16,095,833	当期支出合計	16,705,974
前期繰越	15,450,145	当期収支差額	-610,141
収入総額	31,545,978	次期繰越収支差額	14,840,004
		支出総額	31,545,978

※ 期末現預金残高と次期繰越収支差額の突き合わせ

期末現預金残高 + 立替金 - 未払金 = 次期繰越収支差額

16,209,378 + 16,208 - 1,385,582 = 14,840,004

・立替金: プロジェクトAへの書籍代・交通費・通信費(2003年11月に回収見込み)

・未払金: 医療機関支援事業(メンテナンス)1,016,491円・輸送費(3月船便)369,091円

上記期間の収支報告書を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2003年 4月 29日

監査人

南 和也



## 事務局便り

【退任の挨拶】このたび、一身上の都合により、事務局員の職を退くことになりました。なあって書くと堅苦しいのですが、ちょいとめでたい事がありまして(編集子注釈:パパになるのだ!!)、アルバイトのままではいられなくなりました。先日の運営委員会で後任も鈴木さんと決まり、このポレーシエが皆様の手に届くころには、新しい事務局体制が始動していることと思います。運営委員の皆さんをはじめ支援者の皆さんには、すごく中途半端なキャリアしかない自分を迎え入れていただき、感謝の言葉もありません。

チェル救という非営利団体は、とても個性的な運営委員の面々と、沢山の方々の少しずつの支援の集まりで成り立っているのですが、そのことが解ってくるにつれ、チェル救の存在がとても繊細で貴重なものに思えてしまいます。これからは、直接チェル救に関わっていく事が難しくなりますが、立場は変わっても、このような団体が存続し続けるようにと願い、できる範囲で協力していければと思っています。ではでは皆さん、またどこかでお会いしましょう。(佐保)

【新任の挨拶】チェル救の皆様、初めまして！鈴木美登里と申します。この度6月より事務局の佐保さんの後任として、主に会計を担当することになりました。頼りない私ですが、どうぞ温かく見守ってください。

ところで、私が小さいころから興味を持っていたものは、“ギザの三大ピラミッド”と“オーロラ”でした。ピラミッドは、幸運にも現地に行く機会があり、何とか見る事ができました。夜の星空に、特に秋から冬にかけて、“オリオン座”を見ることが出来ますが、三大ピラミッドは、この“オリオン座”と大きく関係があるとも言われています。(天文学者の話によるとですが)あの三つの並び方が、オリオン座の中心の“ベルト”にあたる部分に相当するそうです。私はこの話をはじめて聞いた時、とても感銘を受けました。オーロラも大変興味深いもので、死ぬ前に絶対に一度は見てみたいと思っております。雑談でしたが、では皆様、これから佐保さんの後任として、またチェル救のメンバーとして努力し、ウクライナへの貢献をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



＜鈴木さん(左)と佐保さん(右)は、引き継ぎの真ん中＞

## 編集後記

- ☆このところ夜中の地震のときは、必ず直前に目が覚めている。来たる東海大地震に備えて、防衛本能が高まっているのだろうか、予知能力が「なます」に近づきつつある…。 (佳)
- ☆スローな価値観で生きるスローライフ。憧れても実現しない。月～金…学生、土～日…バアバの私。 (京)
- ☆友達思いの旧友が紹介してくれたアルバイト。またまた新人になって働く。おおっ百発百中(喜)!! まだ腕は鈍っていないぞと自我自賛。理由をつけて都会人になりきる。 (美)
- ☆『イラク侵略』の真犯人は、①ユダヤ人国家「イスラエル」を建国し、②兵器を売りつけ、③パレスチナ人を虐殺し、④石油利権を略奪した…『ロスチャイルド一族』です。これは、新聞やテレビではタブーになってるけど、本当の話だよ。 (J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町20-14  
印刷「エープリント」  
Tel・Fax (052) 871-9473